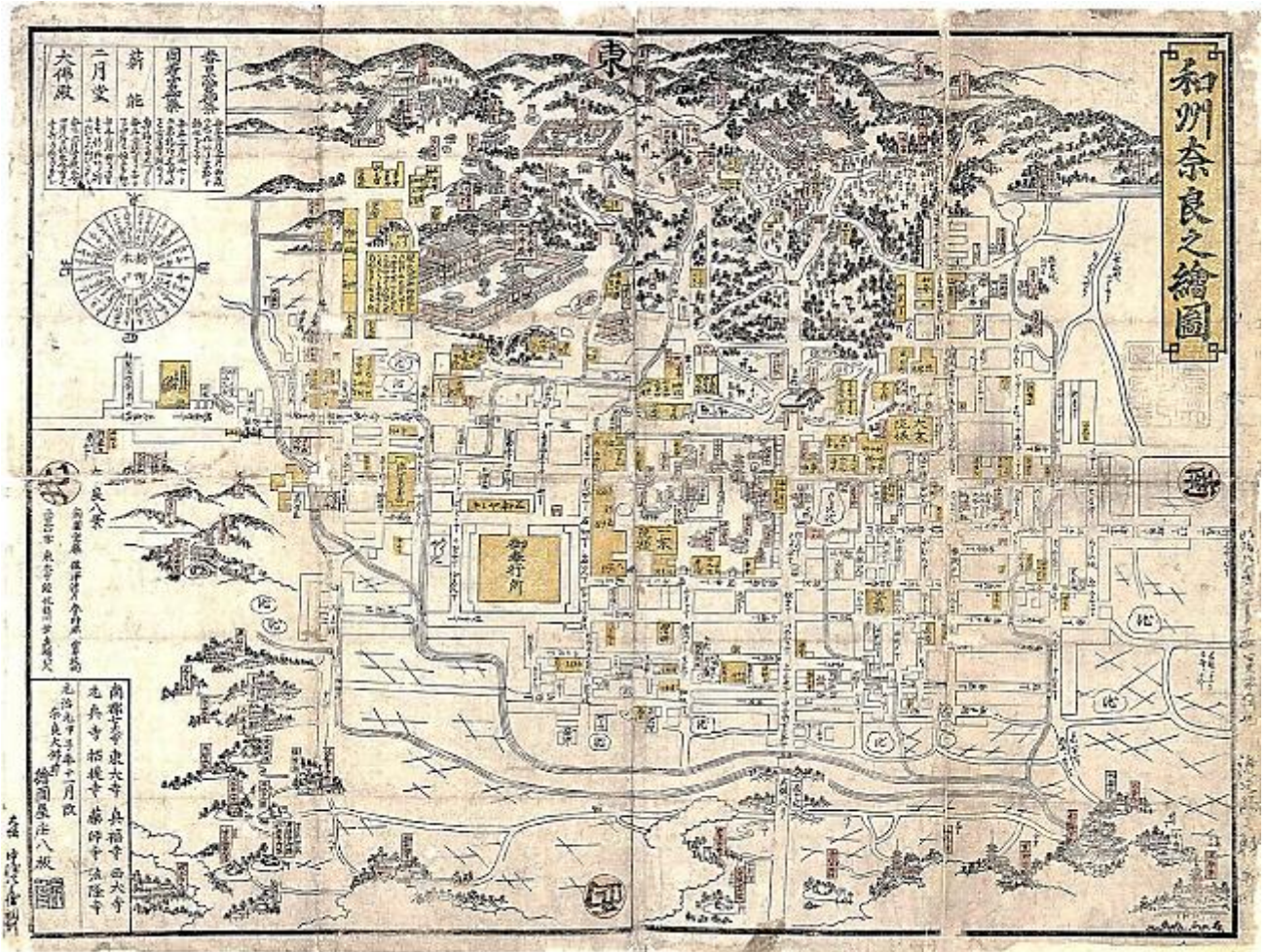


古地図で歩く奈良

～江戸時代の名所案内図『和州奈良之絵図』を巡る～

発表日 2023年1月29日

発表者 山崎 愛子



和州奈良之絵図（奈良県立図書情報館所蔵）

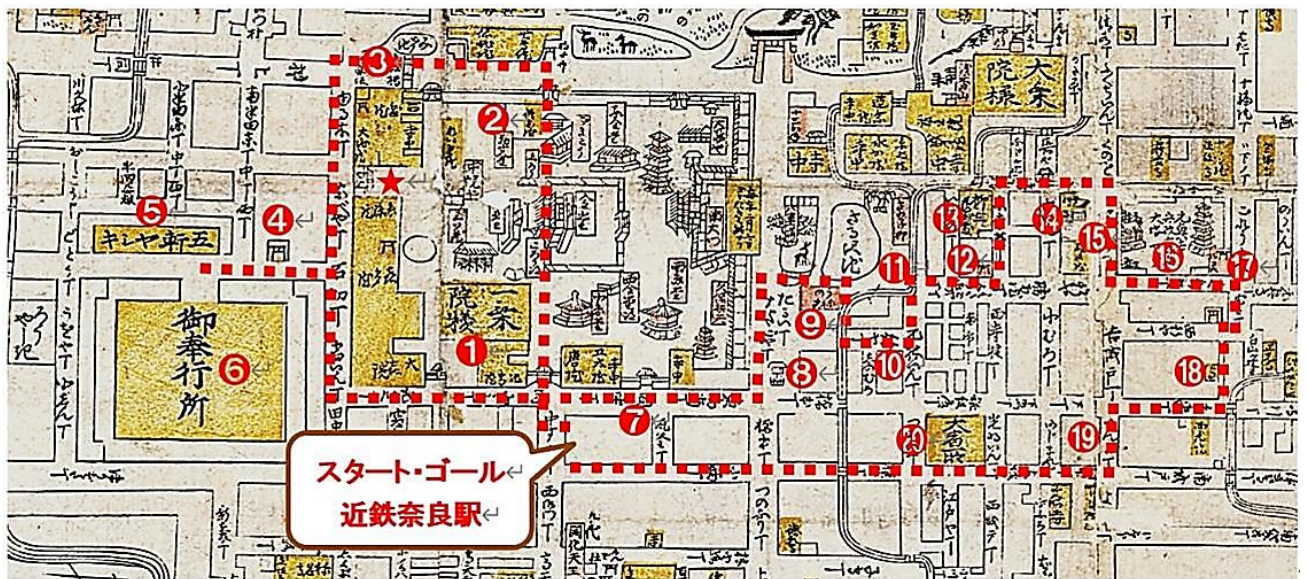
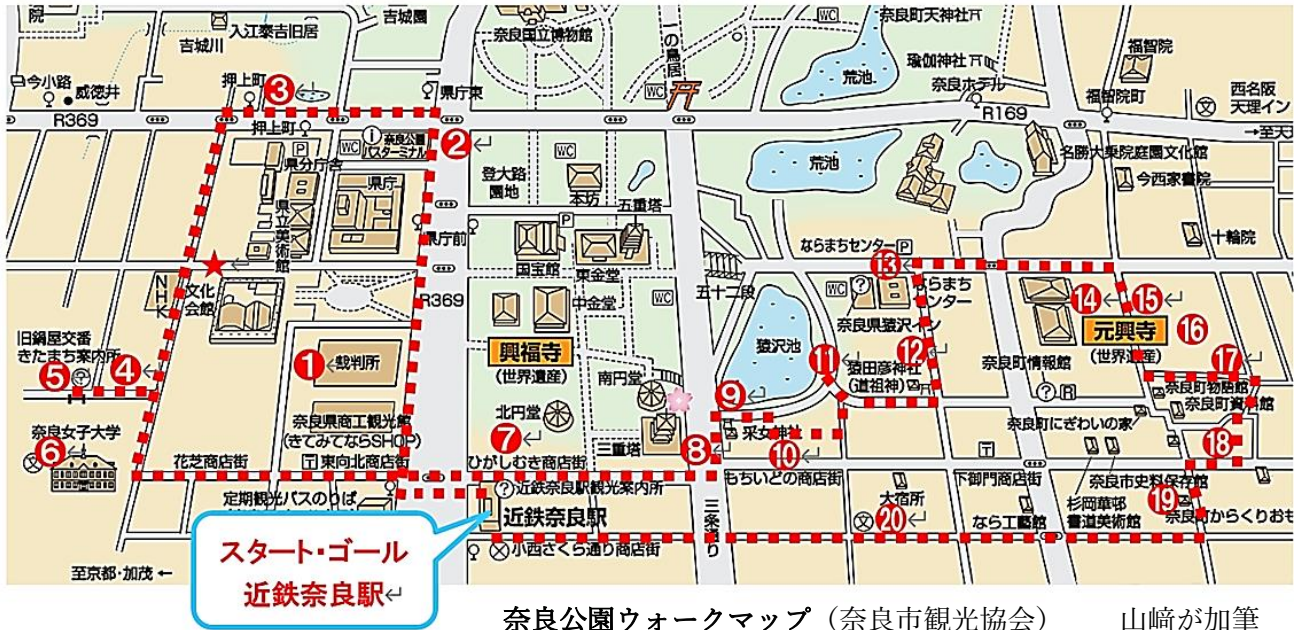
はじめに

『和州奈良之絵図』を片手に、江戸時代と現在の同じところ、違うところ探しながら、ならまちを歩くツアーを催行したのが2017年4月。所属しているガイドグループで、初めて企画催行した思い入れの深いツアーである。

『和州奈良之絵図』に関する書物や論文などはあまりないため、調べるのに苦勞をしている。奈良市立資料保存館には何度も足を運び、教えていただいた。お忙しい中、丁寧に対応してくださった学芸員の方々に感謝をしている。しかし、分からないことの方が多く、真実を知ることが難しいことだと痛感しているが、それでも奈良を知ることが出来る喜びはひとしおである。





1, 「和州奈良之絵図」を用いたお勧めのコース

- 近鉄奈良駅 … ①奈良地方裁判所 … ②バスターミナル … ③みとりみ池園地 …
 ④初宮神社 … ⑤旧鍋屋交番きたまち案内所 … ⑥奈良女子大学 … ⑦東向商店街 …
 ⑧御高札場 … ⑨采女神社 … ⑩絵屋橋の跡・元林院 … ⑪率川地蔵尊・嶋嘉橋 …
 ⑫猿田彦神社 … ⑬ならまちセンター … ⑭元興寺 … ⑮芝突抜町 … ⑯元興寺塔跡 …
 ⑰御霊神社 … ⑱元興寺小塔院 … ⑲陰陽町 … ⑳椿井町 … 近鉄奈良駅



2, 行先と見どころ

	<p>①奈良地方裁判所 ← 一乗院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興福寺の門跡寺院 明治時代、廃仏毀釈で廃絶 ・門主覚慶は還俗し、室町幕府最後の15代将軍足利義昭となった ・一乗院の宸殿が移築され、唐招提寺御影堂に
	<p>②バスターミナル ← 興福寺東円堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平安時代後期、待賢門院の発願で建立 室町時代末に焼失 ・『沙石集』東円堂の八重桜 ナラノヤエザクラの名所 ・いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな (伊勢大輔)
	<p>③みとりみ池園地 ← みとりみ池・轟橋・雲井坂</p> <p>みとりみ池</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都から奈良に歩いて来た旅人が、春日社の一之鳥居が見えてきた場所であることから、見鳥居池と呼んだのが名前の由来とも <p>轟橋 : 南都八景のひとつ「轟橋の行人」</p> <p>雲井坂 : 南都八景のひとつ「雲井坂の雨」</p>
	<p>④初宮神社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春日大社境外末社 ・春日若宮おん祭 12月17日の午前中 田楽の一団が芸能を奉納
	<p>⑤旧鍋屋交番きたまち案内所 ← 五軒ヤシキ</p> <p>旧鍋屋交番きたまち案内所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和初期の建物、昭和48年まで奈良署の派出所だった <p>五軒ヤシキ: 奈良奉行所の与力の家が五軒あった</p>
	<p>⑥奈良女子大学 ← 御奉行所</p> <p>奈良女子大学記念館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治42年 国立奈良女子高等師範学校 <p>御奉行所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶長8年(1613)設置 徳川幕府の直轄地である奈良町を支配 ・明治時代 廃藩置県で廃止された
	<p>⑦東向商店街 ← 東向丁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平城京の外京六坊大路 ・通りの東側は興福寺の境内地、そのため西側にのみ建物が建てられ、全ての建物が東を向いていたことが、地名の由来という

	<p>⑧御高札場 御高札場：東六坊大路と三条大路が交差する札の辻 お触れや通告を伝達する立札が建てられていた 1984年、地元の人々の尽力により復元 奈良縣里程元標：明治21年 距離を測るスタート地点として、 各府県に1基ずつ置かれた</p>
	<p>⑨采女神社 ・春日大社の末社 祭神：采女命 ・奈良時代、天皇の寵愛が薄れたことを嘆き、猿沢池に身を投げた采女の霊を慰める為に祀られたという</p>
	<p>⑩絵屋橋の跡 ← 絵や丁 ・絵屋橋の欄干：暗渠となった率川にかかっていたもの ・絵や丁：江戸時代、仏画などを描く絵師が住んでいたことが由来</p>
	<p>⑪率川地蔵尊・嶋嘉橋 率川地蔵尊：舟形の中州に、幕末の河川工事の際に見つかった約40体の石仏が祀られている 嶋嘉橋：私財を投じて架設した椿井町 嶋屋嘉兵衛の名を取った石橋</p>
	<p>⑫猿田彦神社 ・ご祭神：猿田彦命、市寸島姫命 ・道祖神：道の辻、峠、国境などに祀られ、悪霊、疫病等から守る</p>
	<p>⑬ならまちセンター ← 柳生藩南都屋敷 ならまちセンター ・明治に奈良町役場、明治31年(1898)市役所、昭和52年(1977)に新庁舎に移転、その後、ならまちセンターに 柳生藩南都屋敷 ・四代目・宗冬の代に建設 ・柳生家の領地・柳生の里と奈良市南部・天理市北部との連絡場所</p>
	<p>⑭元興寺 ・飛鳥時代、蘇我馬子が飛鳥に建てた法興寺 ・平城遷都に伴い、元興寺として建立 南都七大寺の一つ ・平安時代以降は次第に衰退、室町時代(1451)、江戸時代の安政六年(1859)の火災で、伽藍のほとんどが焼失 ・真言律宗の元興寺 華嚴宗の元興寺(塔跡)、小塔院が残る ・真言律宗元興寺：世界遺産 智光曼荼羅、五重小塔、行基尊</p>

	<p>⑮芝突抜町 ← きつねがつし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参勤の大名の役人達や能役者などの宿泊所があったが、安政6年の火災で焼失
	<p>⑯元興寺塔跡 ← 元興寺五重大塔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝新屋町 華嚴宗東大寺の末寺 ・安政六年(1859)の火災により、五重大塔と観音堂が焼失 ・基壇と17個の礎石が残る 国史跡
	<p>⑰御霊神社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延暦19年(800年)、桓武天皇の勅願により五條市靈安寺から遷された ・遺恨の死を遂げた人々を祀る
	<p>⑱元興寺小塔院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西新屋町 虚空蔵堂が建つのみ(仮堂・江戸時代) ・奈良時代、光明皇后の発願で、五重小塔を置くために造られたという ・称徳天皇が、百万小塔を納めたとされる
	<p>⑲陰陽町 ← いんよ丁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町名は陰陽師が住んでいたことにちなむ ・庶民の最初の暦という奈良暦が作られていた
	<p>⑳椿井町</p> <p>大宿所：おん祭の大宿所祭が行われる 椿井小学校 明治八年新築</p>